

# 川崎商工会議所 中小企業景況調査 2025年10~12月期 調査結果

●調査対象 川崎商工会議所会員 80事業所 ●調査時期 2025年11月1日～11月20日

## 1 業況について

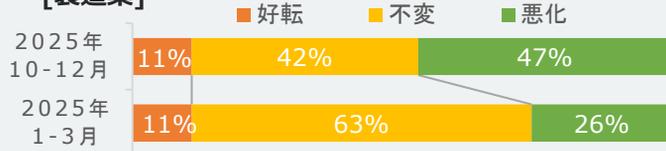
◆今期（10～12月）は「不変」が過半数を占めているものの、その割合は前期から減少し、「悪化」が増加した。「好転」はサービス業で2割弱みられるが、その他の業種では1割程にとどまり、建設業では0であった。「悪化」は建設業・小売業で3割、卸売業で4割、製造業では5割弱に達している。全体としては依然「不変」が大勢であるが、コスト高などの影響により、業況が下押しされている。

◆来期（1～3月）の見通しは、全体として「悪化」が1割程度減少しており、やや改善の兆しが見られる。特に製造業・卸売業では「悪化」が2割程度減少している。その一方、多くの業種において「不変」が7割前後を占め、先行きに対して慎重な姿勢がうかがえる。サービス業では人件費や原材料費等のコスト負担が重く、業況については厳しい見方となった。



## ■ 業種別

### 【製造業】



### 【建設業】



### 【卸売業】



### 【小売業】



### 【サービス業】



## 2 設備投資について

[今期（2025年10月～12月）]

実施した：7.5% 実施していない：92.5%

<実施内容>

設備	車両・運搬具	付帯設備	OA機器
17%	17%	33%	33%

[来期（2026年1月～3月）]

計画している：2.5% 計画していない：97.5%

<計画内容>

付帯設備	OA機器
50%	50%

## 3 経営上の問題点 [複数回答]

◆製造業・卸売業・小売業では「需要の停滞」が共通して最大の課題となっており、製造業で5割弱、小売業で4割強が挙げている。また「原材料・仕入単価の上昇」は全業種で上位に挙げられ、引き続き経営上の大きな課題となっている。

◆サービス業では人件費増加や人手不足といった人材面の負担が重く、建設業では材料費高騰に加え、経費増加や請負単価の伸び悩みが収益を圧迫している。製造業では設備の老朽化など将来に向けた投資環境の課題も顕在化している。

### 【製造業】

1位	需要の停滞	47%
2位	原材料価格の上昇	36%
3位	生産設備の不足・老朽化	27%

### 【建設業】

1位	材料価格の上昇	45%
2位	材料費・人件費以外の経費の増加	36%
3位	請負単価の低下・上昇難	27%

### 【卸売業】

1位	需要の停滞	40%
2位	仕入単価の上昇	30%
3位	取引先の閉店による売上減少	20%

### 【小売業】

1位	需要の停滞	45%
2位	仕入単価の上昇	23%
3位	大型店・中型店の進出による競争の激化	14%

### 【サービス業】

1位	材料等仕入単価の上昇	56%
2位	人件費の増加	44%
3位	従業員の確保難	28%